

様式第 2 号（政務調査活動実施報告書）

平成 24 年 11 月 30 日

井原市議会議長

宮地 俊則 様

井原市議会議員 藤原 浩司

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成 24 年 11 月 19～21 日
2. 研修会等の開催 地または視察先	・ 鹿児島市議会 ・ 宮崎市国際航業(株)都農第 2 発電所 ・ 宮崎文化振興協会宮崎科学技術館
3. 研修会等の名称 または視察内容	・ 大規模太陽光発電所(メガソーラー) ・ 宮崎メガソーラー発電事業都農台 2 発電所 ・ プラネタリウム関連教室等のイベントについて 建設に至った経緯、今後の課題等について
4. 研修会等の講師 名または視察先 の担当者名	・ 鹿児島市議会事務局課長 濱村 浩 岡本隆広 鹿児島市環境政 策化 課長 椎木明彦 KYOCERA 北 道弘 ・ 宮崎ソーラーウェイ(株)国際航業(株) 服部 豊 ・ 宮崎科学美術館館長 山口哲郎 隈本修一 里岡亜紀
5. 調 査 活 動 内 容	別紙添付

1. 報告書は、調査活動終了後 2 週間以内に提出すること。
2. 調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りま
とめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

鹿児島市議会

大規模太陽光発電所(メガソーラー)に対する支援について

- ・ 支援の取組み内容について

民間事業者が鹿児島市においてメガソーラー発電事業を検討し、及び実施するに当たり、事業計画策定について適切な支援を行うため鹿児島市メガソーラー発電事業支援連絡会を設置している。これは行政が法や条例などの緩和をする支援で県にも働きかけ、いち早く事業展開が行えるようにする支援である。

また、連絡会の構成は会長に執行部環境局環境部長、副会長に環境局環境部環境政策課長その他執行部の課長が全て係りを持つという徹底ぶりである。

- ・ 今後の支援について

再生可能エネルギーは今後もどんどん進めていく考えである。これは鹿児島市長が都市計画法の中で環境アセスに係るような施設はしないと言う考えで、積極的に環境リーディングシティーを目指し進めて行く考えである。

- ・ 現地視察について

70MW 国内最大級のメガソーラー計画で来年秋の完成であったが、最近になって大分市が80MW のメガソーラー建設計画を発表した為に規模的に国内 2 番手になった。高台からメガソーラー工事場所を一望したが半端では無い規模である。工事場所は IHI 石川島が造船所を建設予定とした土地で 127 万㎡で東京ドーム 27 個分に相当する広さである。年間消費電力量に一般家庭 22000 戸に相当し年間 25000t の CO2 削減になる。

大洋電池モジュールは国内産の多機能結晶シリコンを採用した京セラ製のものである。

京セラ・IHI・みずほ CB の三社による事業力を強みにプロジェクトを推進している。

まとめ

IHI 所有の、負の土地が時代の流れに乗り、京セラ・みずほ CB・鹿児島市・鹿児島県がベストタイミングで融合し途轍もないエネルギー産業として生まれ変わろうとしている。これは先を見越した鹿児島市のメガソーラー発電所計画を平成 8 年から策定していたことにあり平成 33 年以降の計画まで策定している事にある。井原市では他市に遅れを取るばかりか、計画すら無い状態である。メガソーラー発電所計画を早急に立てるべきで、計画が無い市に業者は来ない、電力が安定しない所には企業は来ないと言う事になる。

宮崎ソーラーウェイ(株)宮崎メガソーラー発電事業都農第 2 発電所

- ・ 先進的な事例の実情を直接把握するための現地視察について

総工費 6 億円(国・県で 1/2 の補助)でリニアモーターカー実験線の高架上に 3.9km にも及ぶメガソーラー発電所で、ここでも宮崎県東国原知事が再生可能エネルギー計画をしていた事が幸いして出来た発電所であり、世界一長い発電所である。やはりメガソーラー発電計画を立てている市、県には企業が来るという事になる。ここでの発電規模は 1050KW で民間 300 戸に相当する。1 日に 3000kwh~7000kwh を発電し年間 1 日平均 5000kwh×40 円で一日に 20 万×30 日=600 万×12 カ月=7200 万の実績になる。少しの金利で銀行へ預けるよりはるかに良い。20 年間のソーラーパネル保障があり、現在 2 年が経過するがパネルの掃除などは一切したことが無い。メンテナンスは今のところ少ない。

まとめ

宮崎市でも市・県がタイアップし行政面での手続き等を緩和する支援をしている事及びソーラー発電計画があると言うことが良かったと思える。地方分権の今、時代の流れに乗るべきは乗り、経営理念を持って行政を運営すべきである!!

宮崎文化振興協会宮崎科学技術館

- ・ プラネタリウム関連教室等のイベントについて
プラネタリウムを使用した学習要項に則った教室の開催他、大人向けのイベント、その日の星の開設、季節の星の開設他、宇宙科学とを取り入れた星のイベント教室の開催
天体望遠鏡を持って行き、野外での星の出前口座等。
- ・ 建設に至った経緯について
昭和 62 年 8 月 1 日に市政 60 周年記念事業として「明日を担う子どもたちに {科学する心} {創造性} を培う場を提供する為に開設」
- ・ 今後の課題等について
安全確保
天候に左右されること
市民大観望会
人件費

まとめ

この施設の凄いことは、プラネタリウムを使用した学習要項に特化した学習をする事で施設の指導員に教育委員会から教師を派遣している事である。

やはり専門的に 2 人の教師がそれぞれ担当を受け持ち年間のイベントや学習会を計画して行くと言う意気込みが星に関する教育に力を入れているということが判る。

井原市にも専門の天文学者が居ますが、他にも教育委員会の専門教師を置くべきであり、天候の事も考えてプラネタリウムの建設を考えるべきである。星の里、美星の観光資源としても、学習要項に特化した子どもたちの教育の為に計画すべきである。

様式第2号（政務調査活動実施報告書）

平成24年12月4日

井原市議会議員
宮地俊則様

井原市議会議員 高田正弘

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成24年11月19～21日
2. 研修会等の開催地または視察先	・鹿児島市議会 ・宮崎市国際航業(株)都農第2発電所 ・宮崎文化振興協会宮崎科学技術館
3. 研修会等の名称または視察内容	・大規模太陽光発電所(メガソーラー) ・宮崎メガソーラー発電事業都農第2発電所 ・プラネタリウム関連教室等のイベントについて 建設に至った経緯、今後の課題等について
4. 研修会等の講師名または視察先の担当者名	・鹿児島市議会事務局課長 濱村 浩 岡本隆広 鹿児島市環境政策化 課長 椎木明彦 KYOCERA 北 道弘 ・宮崎ソーラーウェイ(株)国際航業(株) 服部 豊 ・宮崎科学美術館館長 山口哲郎 隈本修一 里岡亜紀
5. 調査活動内容	別紙添付

1. 報告書は、調査活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

鹿児島市議会

大規模太陽光発電所(メガソーラー)に対する支援について

- ・ 支援の取り組み内容について

民間事業者が鹿児島市においてメガソーラー発電事業を検討し、及び実施するに当たり、事業計画策定について適切な支援を行うため鹿児島市メガソーラー発電事業支援連絡会を設置している。これは行政が法や条例などの緩和をする支援で県にも働きかけ、いち早く事業展開が行えるようにする支援です。

また、連絡会の構成は、会長に執行部環境局環境部長、副会長に環境局環境部環境政策課長があたり、その他各9課長が全て係りをもちながら共同で計画を進めています。

- ・ 今後の支援について

再生可能エネルギーは今後もどんどん進めていくとの考えで、これは鹿児島市長が都市計画法の中で環境アセスに係るような施設はしないと言う計画や考えを持っている為、積極的に環境リーディングシティーを目指し進めて行く様です。折しも市長選が行われていてこの報告書を提出する時には、市長は再選されていました。

- ・ 現地視察について

70MW 国内最大級のメガソーラー計画で来年秋の完成であったが、最近になって大分市が80MW のメガソーラー建設計画を発表した為に規模的に国内2番手になった。高台からメガソーラー工事場所を一望したが半端では無い規模である。工事場所はIHI 石川島が造船所を建設予定とした土地で127万m²あり東京ドーム27個分に相当する広さである。年間消費電力量に一般家庭22000戸に相当し年間25000tのCO₂削減になる。

大洋電池モジュールは国内産の多機能結晶シリコンを採用した京セラ製のものである。

京セラ・IHI・みずほCBの三社による事業力を強みにプロジェクトを推進しています。

まとめ

IHI 所有の、塩漬け負の土地が時代の流れに乗り、京セラ・みずほCB・鹿児島市・鹿児島県がベストタイミングで融合し途轍もないエネルギー産業として生まれ変わろうとしている。これは先を見越した鹿児島市のメガソーラー発電所計画を平成8年から策定していたことにあり平成33年以降の計画まで策定している事は注目するところです。

井原市では、周辺市町村に遅れを取るばかりか、計画すら無い状態であります。メガソーラー発電所計画を早急に立てるべきで、計画が無い市に事業者は来ないし、電力が安定供給出来ない所には企業は進出しないと考えます。

宮崎ソーラーウェイ(株)宮崎メガソーラー発電事業都農第2発電所

- ・ 先進的な事例の実情を直接把握するための現地視察について

総工費6億円(国・県で1/2の補助)でリニアモーターカー実験線の高架上に3.9kmにも及ぶメガソーラー発電所で、宮崎県東国原知事が再生可能エネルギー計画をしていた事が実施の切っ掛けに成り完成出来た発電所であり、世界一長い発電所であります。

やはりメガソーラー発電計画を立てている市、県には企業が来ると言う事に成ります。

ここでの発電規模は1050KWで民間300戸に相当する。1日に3000kwh~7000kwhを発電し年間1日平均5000kwh×40円で一日に20万×30日=600万×12カ月=7200万の実績に成ります。少しの金利で銀行へ預けるよりはるかに良い費用対効果を生んでいます。

20年間のソーラーパネル保障があり、現在2年が経過するがパネルの掃除などは一切したことが無いとの事です。メンテナンスが少ないので雇用は産まないようです。

まとめ

宮崎市でも市・県がタイアップし行政面での手続き等を緩和する支援をしている事、及び

ソーラー発電計画を持っていることです。時代の流れやニーズに応えるべきで、経営感覚や理念を持って行財政を推進すべきだと思います。

宮崎文化振興協会宮崎科学技術館

- ・ プラネタリウム関連教室等のイベントについて
プラネタリウムを使用した学習要項に則った教室の開催他、大人向けのイベント、その日の星の解説、季節の星の解説他、宇宙科学を取り入れた星のイベント教室の開催
天体望遠鏡を持って出向き、野外での星の出前講座等。
- ・ 建設に至った経緯について
昭和 62 年 8 月 1 日に市政 60 周年記念事業として「明日を担う子どもたちに{科学する心}{創造性}を培う場を提供する為に開設」
- ・ 今後の課題等について
安全確保
天候に左右されることへの対応
市民大観望会
人件費

まとめ

この施設の特徴は、プラネタリウムを利用して学習要項に特化した学習をする事です。施設の指導員に教育委員会から 2 名の教師を派遣している事で意気込みが分かります。やはり専門的に二人の教師がそれぞれ担当を受け持ち年間のイベントや学習会を計画して行くと言う意気込みが、星に関する教育に力を入れているということが感じられます。井原市には専門の天文学者、綾仁先生が居られます。加えて教育委員会の専門教師を置くべきであり、天候の事も考えてプラネタリウムの建設を考える必要があると考えます。美しい星の街、美星の観光資源として、学習要項に特化した子どもたちの教育の為にも計画すべきであると考えます。